

## 「秋」

私達の新居は、センコンというモン  
リオールから高速で約二時間北に走った、  
白樺と美しい湖の多い静かな村にあった。  
モンリオールの人々の夏期の避暑地で  
ある。

人口はおよそ二千人。ただし夏期は三  
倍に膨れ上るゆるやかな高地で、一本の  
澄んだ川が村の中央を流れ、あちこちの  
森や湖畔に、赤い屋根の瀟洒な別荘の見  
え隠れする美しい村だった。

白い教会の塔の見える村の中心は、家  
から約二キロほど下にあり、小学校も教  
会の近くにあり、毎朝黄色のスクールバ  
スが坂を登り、家の前まで迎えに来るの  
だった。

到着した翌日から、早速孫は学校へ出  
かけた。一応顔をだしてから当分は家に  
居ればいと考えていた私は、毎朝八時  
に迎えにくるバスにさつさと乗りこんで  
登校してゆく孫の姿に、驚きの眼を見張  
った。それは到底そのまま信じ難い奇蹟  
を見る思いだった。

翌日も、またその翌日も、孫は門の所  
に立って、バスの来るのを待ちかねる風  
だった。思わず私は心の中で合掌した。

東洋人の子供が珍らしいこともあった  
のであろうか、孫は皆から大切にされ、  
当人も今まで接したことのない金髪の子  
供達が自分の知らない言葉で話しかけ、  
上級生のお姉さん達からまで贈物をうけ、  
自分も一日一日少しずつ彼等の言葉を覚  
え、意味が分ってくる楽しみを味わった

ようだった。

それに一年生の最初から授業を受けた  
のがよかった。先生は一樣に何も知らな  
いものとして、アルファベットの文字か  
ら始められ、一日に二つか三つづつ発音  
を厳しく教えられるので、その限りでは  
孫も授業についてゆけるばかりでなく、  
よくできると先生からキャンターの御褒  
美をいただき、日によっては孫はキャンテ  
ーを一つも三つもいただいて帰ってきた。  
私達はどうぞこの調子で続くようにと祈  
った。

孫の学校のことで私達が夢中になつて  
いる間に、さつさと秋は更けていった。

カナダの秋の美しさは格別である。ほ  
つほつ色つき始めたかと思うと、あつと  
言う間に山々には楓の真紅の紅葉が燃え  
たち、深い緑の湖水に影をおとす姿は、  
名状し難い美しさだった。

## 「冬」

カナダの秋は足早に去ってゆく。ひと  
しきり秋の紅葉を楽しんだかと思うと、  
急に冷えこみ、白いものがちらちらする。  
昨年は殊に降雪が早く、十一月末には初  
雪をみた。そしてクリスマスを迎える頃  
には、山野は深い雪におおわれ、家もす  
っかり雪に埋まる。

戸外は、夜間は零下三十度の冷えこみ  
だが、家の中には赤々と暖炉が燃え、少  
し厚着をすると、額が汗ばむほどだった。  
親切な人達はかりだった。それに雪に  
閉ざされた単調な生活もあつて、次々と  
様々な人達が訪ねてくださった。そして

皆一樣に、単調な雪に閉ざされたカナダ  
の冬は堪え難いだろうと慰さめて下さつ  
た。

その訪問客の中に、ロレンソ先生御夫  
妻がおられた。お二人とも八十に近い御  
老体であつたが、実に元氣な方達で、直  
ぐ近くの湖畔の立派な別荘を売り払つて、  
三年前キャンピングカーにピアノと画材  
を積みこみ、アメリカ各地からメキシコ  
まで、二年間にわたつて気の向くままに  
楽しい旅を続けられ、最近帰つて来られ  
たという、白髪鬚の堂々たる老人だつ  
た。モンリオールの音楽学校を出られ、  
音楽家であることは勿論のこと、画家で  
もあつた。大麥孫を可愛がつてくだされ、  
ピアノを教えて下さることになり、先生  
がなくて弱つていた時だけに有難かつた。  
森の木立の中に大きなキャンピングカー  
を固定し、夏場はそこに泊られるようだ  
つたが、現在はシヨリエットというモン  
リオールへの途中の大学のある小都市  
に住んでおられるので、私達は家族ぐる  
み、週に一度お邪魔をし、孫がピアノを  
教わっている間、私は立派なアトリエで、  
お二人の画を拝見したり絵を描かせてい  
ただいた。私達の周辺ではこのような愉  
快な老後の愉しみ方を知らないで、頭  
がさがつた。

若い人の中にも、婿の友人で親御さん  
からモンリオールのスーパーの経営を  
引きついだ愉快な御夫妻がある。徹底し  
た都会嫌いで、バカンスには遠く北の方  
に、銃とカヌーをもつてでかけ、熊に出  
喰わしたりしたという。大きなムースを

一頭射とめたといつて、私達もその肉を  
御馳走になつたこともある。週末には御  
夫妻でやつてきて、畑作りを手伝つたり、  
トラップ(わな)をかけて毛皮になる小  
動物を捕獲したりすることが唯一の慰安  
だと話していく。愉快なのは、夜は零下  
三十度の雪の中に御夫婦で寝袋の中に寝  
て、決して家の中に寝ようとしないのだ  
つた。大麥変わり者のようだが、こうした  
型もカナダの若者の中には多く見つける。  
それほど自然が大きく美しく、彼等を満  
足させるだけの野生動物も豊富に身近に  
まだ棲息している。

## 「春」

孫のスキーやスケートが充分上達しな  
いうちに、急に温かい日が続き、春が馳  
け足でやつてくる。日本の春、佐保姫は  
霞と共に静かにやつてくる。しかしカナ  
ダの春は、大きな自然だけに、実に豪快  
である。雪どけの水は森に滝のような轟  
きを響かせ、川面に張つた厚い氷は音を  
たてて割れ、尖い氷塊は川面を埋めてひ  
しめき流れる。氷塊は所々で川を堰とめ、  
水は堤防を切つて道路に溢れる。今年の  
春は一度ほど交通が途絶し、私達は孤立  
におちいった。

しかし激しいだけに雪どけも速かで、  
庭の積雪もとけ、あちこちに地膚が現わ  
れる頃になると、白樺や杉の若芽はふき、  
たちまち鮮やかな薄緑一色になる。そし  
て野鳥の訪れが始まる。暫くは水のせせ  
らぎと、野鳥のさえずりが天地に満ちる。  
そして野面に美しい花の咲き乱れる頃